

第1話 高天原

日本の歴史は神代のことから始まる。天照大神が支配された高天原
(たかまがはら とも読む) から、乱暴をした御弟の素戔嗚尊が逐い出された。

日本はどのようにして出来たのでしょうか？ どういう変遷、発達をして今日のこの日本国となったのでしょうか、
いったい日本はどういう国柄でしょう、日本人はどういう民族なのでしょう？

これらのことを始めとして、日本国民として我々の知っておかなければならない歴史上の事跡は大変
多くあります。これらを知っていれば、多くの民族が存在する世界各国の中で、日本人として誇りを持
って、世のために活躍することもできます。

そもそも日本はどうやって出来たのでしょうか？ いつから始まったのでしょうか？

かみよ ものがたり
神代の物語

どこの国でも大昔のことははっきりとは分かりません。しかし、世界の多くの国では、その国の大
昔の様子が神話として残っています。それらは、その国で永く語り伝えられてきた物語です。

ここでは、ギリシャ神話で語られます火山活動が実際に史実として見つかった例にもあるように、
神話の記述を全て嘘と棄てるべきではありません。

わが国にも古くから語り伝えられた神話があり、西暦712年に古事記そして720年に日本書紀という
本に記述されたので、おおよそのことは知ることが出来ます。ここで神話というのは、日本の神代の
物語のことでして、皇室・天皇家の先祖を中心とした方たちを後の世の人が尊敬して、すべて神とし
て崇めているところから、その方たちの時代を指して神代と呼んでいます。

それで、この神代のことから日本の歴史は始まります。

あまてらす おおみかみ おんとく
天照大神の御徳

さて、今日では明確にここだと指すことの出来かねる高天原(たかまがはら とも読みます)という
場所を、遠い昔々、天照大神という方が治めておられました。はじめてこの日本をお造りになっ
た方として有名な伊弉諾尊と伊弉冉尊の子であり、辺りもまばゆいほどに美しい照り輝いた女神
でした。

御徳が大変高く、万のことにすぐれておいでで、最も御心を農事にお留めになり、初めて人々に稲
や麦を田畑に植えさせ、蚕を飼わせ、また、機を織ることをお教えになったといわれます。牛や馬を飼
うこともお勧めになって、その恵みの広く行き渡ったことが、ちょうど太陽の万物を照らすが如くでした
ので、万民に日の神と仰がれました。

この大神こそ実にわが皇室の遠い先祖でして、同時にまた、日本の基をお定めになった方でありま
す。この大神のご威徳で、その治めになる高天原は、どこまでも清く明るく照り輝いて、いつも平和

第1話 高天原

こうふく ひ つづ
で幸福な日が続いておりました。

ところが、^{おおみかみ}大神の弟に^{すさのをのみこと}素戔嗚尊^{かた}という方がおられました。この方は、大神のやさしく、情け深いのと違い、至って勇ましいご気性で、つい元気に任せて乱暴もなさいました。大神がせっかく作らせになった田の畔を壊し、溝を埋めて農作の妨害をなさったこともあれば、また、大神がその年の新しいお米を供えてご先祖を祭られるために新築になった御殿に、汚いものを撒き散らして汚されたこともあった。

けれども、^{おおみかみ}大神はつねに^{みこと}尊を愛しておられたので、そういう乱暴も、尊に悪気があつての事ではあるまいと、何事も善意にとってお咎めにはなりませんでした。ところが、尊の乱暴は益々烈しくなり、或る時、大神が先祖の神々にお供えする機を織らせておいでになると、尊はその機殿の屋根を破って、皮を剥ぎ取った生き馬を投げ込まれました。なんとといういたづらをされたのでしょうか！ それを見た^{はたおり おんな}機織女はびっくりした拍子に機から落ちて死んでしまいました。

あま いわや 天の岩屋

ご先祖に対するこの不敬な乱暴には、さすがの大神も大変お怒りになり、天の岩屋に入り、ぴったりと岩戸を立てて隠れておしまいになりました。さあ大変！ 今の今まで明るく照り輝いていた高天原は、^{おおみかみ}大神の姿が見えなくなると共に全く光を失って、真っ暗闇となりました。

と、それを待っていたかのように、八方から悪者共が飛び出して、さまざまの悪事を働きました。いったいこういう悪者共はいつの世でもそうですが、世の中が良く治まって明るく照り輝いている時には、どこか隅の方の暗い所に小さくなって隠れていますが、ちょっとでも乗ずる機会があると、忽ちもくもくと群がり起こって、悪事を働き、人々を苦しめます。それで、そのままに放任しておけば、世の中は全く乱れてしまいます。

^{たかまのほら}高天原の朝廷では多くの神々が大いにそれを心配されました。どうかして大神を岩屋からお出し申さなければならないが、さて、どうしたら良いのであろうか？ 神々は天の安の河原という所に集まって、^{かいぎ ひら}一大会議を開き、色々と相談なされました。

あま いわと かぐら 天の岩戸の神楽

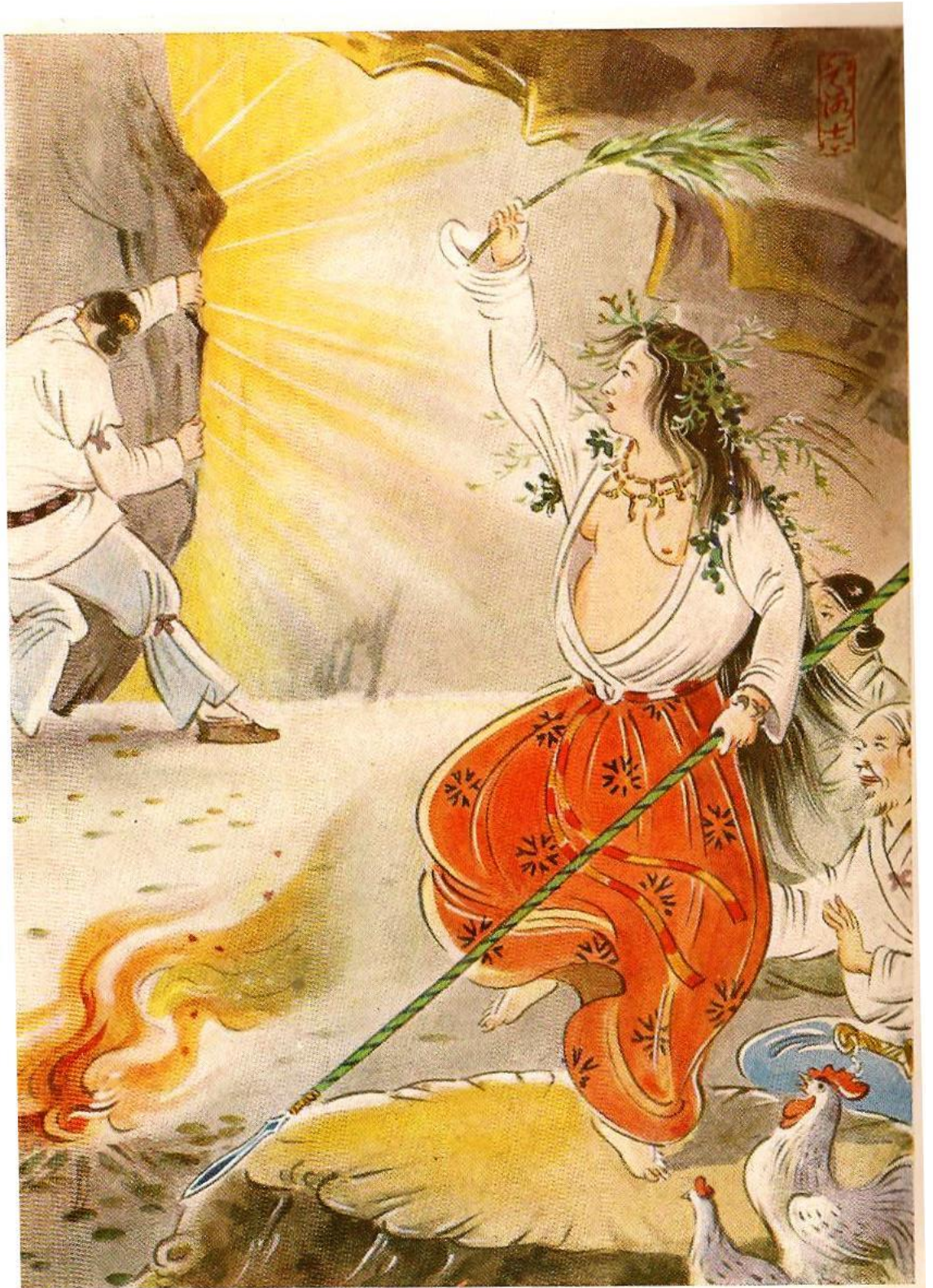
この結果、最も知恵のある^{おもいかねのみこと}思兼命という方の意見に従い、岩屋の前で、みんなで面白そうに踊ったり歌ったり騒いだりすることになりました。というのは、大神がそれを不思議に思し召して、岩戸を開けておのぞきになるに違いないから、その時に、無理にもお出し申すことにしようというのであります。

そこで、根こぎした（根のついたまま引き抜いた）大櫛の、上の枝には八坂瓊の勾玉を取り付け、中の枝には八咫の鏡を取り掛け、下の枝には白い布や青い布をひらひらと懸け垂らして、それを岩屋の前に立ててその前で楽しそうに神楽を始めました。

その時、^{あめのうづめのみこと}天鈿女命という女の方の舞の様がいかにも可笑しかったので、そこにいた神々はどっと笑って、一斉に手を拍ち足を踏み鳴らした。

第1話 高天原

まるで天地を動かすばかりの騒ぎでした。



いわとかぐら
岩戸神楽

すると果して、大神は何事が起こったのかと岩屋の中で怪しまれて、そっと岩戸を細めに開けて、「わたしがここに隠れたために、世の中は困っていようと思うのに、どうして天鈿女命は舞を舞い、他の者達は笑っているのか？」とお尋ねになった。

それで、鈿女命が、「あなたさまよりも優れた貴いお方がお出ましになりましたので、皆が喜んで騒いでいるのでございます」と、こう申し上げる間に、太玉命という方が櫛にかけた鏡を指し出すと、それに大神のお姿が映ったので、大神はいよいよ不思議におぼしめして、なおよくご覧になろうと、戸

第1話 高天原

から少しお出になりかけました。

その時、岩戸の蔭に以前から隠れて待っていた手力男 命 という非常に力の強い方が、ここぞと力を籠めて岩戸を押し開け、大神の御手を取って、無理に外にお出し申しました。すると、他のお方が注連縄を大神の後ろに引き渡して「これより内へはもう決してお入り下さるな」と申し上げた。

今も神社などの尊い場所に注連縄を張るのはこれが基となったのであり、また、今日、神社のお祭りの時に行われる岩戸神楽もこの時の神楽から始まったのであります。

さて、大神がお出ましになると同時に、世の中はまた元のように明るく照り輝いて、悪者どもはどこへともなく影をかくしてしまったので、神々たちも人々も大喜びに喜びました。しかし今度のこういう騒動を引き起こしたのも、元はといえば素戔嗚尊が乱暴をなさったせいですから、尊の処分をしなければなりません。

高天原の朝廷では色々と相談されて、遂に尊を高天原から逐い出すことにしました。いかにご兄弟の間柄ではありましても、君臣の別は厳然として犯すことの出来ないのがわが国の大昔からの定めです。一度、大神のお怒りに触れるような行いをした以上は、それに相応した罰を受けなければならなかったのです。

(第1話 高天原 終わり。 次は前頁に戻り、第2話 素戔嗚尊の出雲降りへ)